

形成外科における QOL 評価と心理社会支援

企画にあたって

形成外科学は、臓器や組織の欠損を直し、その外観と機能を改善することで、患者さんの QOL を向上し維持する学問です。形成外科はそれを臨床の場で実践する診療科です。

形成外科医は、患者さんの顔や胸の形が良くなり、顔がきれいに上がり、良い声が出て、おいしそうに食べ物を食べて、上手に運動する患者さんの姿を見ると、とてもうれしく感じて達成感に満たされます。患者さんも治療者である自分と同じ幸福を感じていると思いたくなります。

実際のところ、患者さんたちはどう思っているのでしょうか？ その治療は患者さんの幸福につながっているのでしょうか？ 完全には治癒しきらない状況下ではどのように現状を受容しているのでしょうか？ どのような支援が必要なのでしょうか？ 患者さんと治療者でどのような協力体制を築くべきでしょうか？ 私たち形成外科医は本当に患者さんの QOL 向上に貢献しているのでしょうか？ 形成外科は社会の中でしっかりと役割を果たしているのでしょうか？

これらは簡単に答えが出せる問いではありません。現時点で、どのような考え方とアプローチがあるのか、その答えに少しでも近づくべく本特集を企画いたしました。

医療は、形成外科は、何のためにあるのでしょうか。高度な技術を駆使される形成外科の先生方にぜひ読んでいただきたい特集です。

編集責任者

信州大学形成外科 杠 俊介